

マテリアリティ(重要課題)一覧

マテリアリティ (重要課題)		2022年度 主な取り組み	2022年度 達成見込み
重点テーマ			
1 気 候 変 動 へ の 対 応	●各工場・各事業所・不動産事業等で使用する電力・燃料の脱炭素化		
	使用燃料転換、設備導入、運転状況見直しを実施する	・当社事業所(清水バイオ工場・総合研究所)に太陽光発電設備を設置	<u>CO2削減量</u> 2013年度比 1,840t-CO2/年 (内、太陽光発電470t-CO2/年)  2013年度比 550t-CO2/年 (内、太陽光発電90t-CO2/年)  2013年度比 175t-CO2/年  (清水バイオ工場) 再エネ割合 約14% (総合研究所) 再エネ割合 100% (ビジネスセンター) 再エネ割合 100%
	●社用車、社用農業機械等の使用燃料の脱炭素化		
	社用車のHV・EV比率を増加させる	・社用車にHVを導入	全社車両台数の4%
2 資 源 の 有 効 活 用	●各工場・各事業所から排出される産業副産物の有効利用促進、維持(資源の循環利用)		
	産業廃棄物の有効利用を促進する	・ライムケーキ(炭酸カルシウムを主成分とする製糖副産物)を 土壌改良剤として農地に還元 ・石炭灰をセメント原料等として有効利用	産業廃棄物の総発生量に対し、 95%以上を有効利用
	●各工場・各事業所からの排水を削減		
	原料てん菜貯蔵中の水利用を削減する	・原料てん菜貯蔵パイル(貯蔵堆積場)での散水を削減	散水量を30%削減
	●原料輸送から販売において、効率化を目指し、省エネ・省人省力・省資材化、製造費・販売費を低減		
	原料輸送の大型車両割合を増加させる	・大型車両が原料を積み下ろしできる環境を整備	<u>大型車両割合</u> 42%
製糖作業の合理化を図る	・電子帳票化ツールの導入を検討	導入に向けてトライアルを開始	
貯蔵原料品質管理作業の省力化を図る	・原料てん菜貯蔵パイル(貯蔵堆積場)の品質管理にデジタル技術を活用	作業の省人省力化 労働災害の防止 作業精度の向上	
てん菜種子の生産・品質管理の効率化を図る	・品質管理にデジタル技術を活用 ・種子採種圃場の収量予想及び収穫適期判定にデジタル技術を活用	データ採取を継続 システム開発に着手	
3 持 続 可 能 な 技 術 ・ 新 商 品 の 開 発	●てん菜および他作物において、減農薬・減肥料・省人省力化(スマート農業)を目指し、生産費を低減		
	てん菜種子の品種開発による 農業の省人省力・省作業化を図る	・労働時間短縮に寄与する除草剤耐性品種を導入 ・褐斑病抵抗性品種の優良品種登録に向けた取り組みを実施	減農薬・省力化・炭酸ガス排出削減
	農業機材の普及による 農業の省人省力・省作業化を図る	・トラクタ装着型の ひっぱりくん® の拡販により、 苗や球根の植付作業を省力化 ※植付労力削減効果 白ネギ：7割削減(簡易移植機 ひっぱりくん® 比) らっきょう：6割削減(慣行植付比)	<u>トラクタ装着型の ひっぱりくん® 販売目標</u> 累計80台
	●有機農業を視野に入れた製品群・栽培方法を開発・製造し、内外に普及させる		
	●大量の炭素を長期間貯蔵する林業事業に当社技術(紙筒移植他)を活用し内外に普及させる		
	紙筒育苗技術により国内における森林保全に努める	・育苗技術の確立 ・民有林での普及、推進活動 ・林業用生分解性紙筒の開発 ・林野庁「伐採と造林の一貫作業システム」にて 紙筒苗木の容認と普及推進	<u>紙筒販売目標(国内外)</u> 320c/s(3,200千本)
●牛の健康に良い飼料を開発・製造し、牛の長命連産を目指す			
牛の疾病を予防する飼料を開発する	・新製品開発 ・開発研究成果を公表(学会発表/特許取得等)	2製品上市 (スタート18、和牛のミカタ)	
●メタン発生量を減少する家畜用飼料を開発・製造することを目指す			
●当社製品に使用されるプラスチック・ビニール等の包装容器類について、削減並びに代替資材類の使用を目指す			
製品包装の使用素材を見直す	・砂糖製品小袋へのバイオポリエチレンの採用	1kg小袋のバイオポリエチレンでの包装を 保管テスト	
出荷時の包装資材を見直す	・生イースト製品(銘柄：REG及びFR)段ボールに使用中の PPバンド(プラスチック製梱包バンド)の廃止	100%廃止	

## マテリアリティ(重要課題)一覧

マテリアリティ (重要課題)		2022年度 主な取り組み	2022年度 達成見込み
重点テーマ			
4 食の安全・安心	●食品メーカーとして安全・安心な製品を提供する取り組みを継続的に推進する		
	製品品質の維持・さらなる向上を図る	・FSSC 22000の認証(食品安全の国際規格)を継続	維持更新
	信頼できる製品イメージの浸透を図る	・製品包装に 家庭用「原料は北海道特産てん菜100%」、業務用「北海道製造」と明記	継続実施
5 働きやすい環境の実現	●コンプライアンスを徹底し、全てのハラスメントを根絶		
	ハラスメントを根絶する	・ハラスメント関連研修の実施による従業員理解の深化(協力会社含む) ・従業員に解説冊子等を配布し啓発を推進(協力会社含む) ・相談窓口を周知し、相談しやすい環境を構築 ・管理職全員に対応マニュアルを配布、適切な措置がとれる体制を整備	管理職の研修受講率100% 一般社員の研修受講率60%以上 (次年度100%目標)
	●安全な職場環境を実現		
	すべての労働災害を根絶する	・外部講師による安全教育や、VR等最新技術を活用した研修の実施 ・チェックリストや効果的な事例の全社共有 ・リスクアセスメントの継続的な実施、設備や連絡体制を整備し、協力会社も含めた災害ゼロを目指す仕組みを構築	<u>リスクアセスメント研修</u> 4拠点で実施  <u>VR活用研修</u> 3拠点で実施 (次年度は全ての工場施設で実施予定)
	●働きがいのある・働きやすい・安心できる職場を実現し、多様な人材を育成(従業員エンゲージメントを向上)		
	女性活躍を推進する 従業員の定着率を維持・向上させる	<b>【女性活躍】</b> ・女性管理職増加を目指し、総合職新卒採用に占める女性の比率を高める取組みを実施 (目標:女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画に基づき、総合職新卒採用の女性比率25%以上) ・育児休業相談窓口の設置、育児休業に関する目標および制度の周知を行い、育児休業を取得しやすい環境を整備 (目標:女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画に基づき、育児休業取得率女性100%、男性7%以上) ・管理職研修等においてダイバーシティ&インクルージョンに関する内容を付加し、女性活躍や男性の育児休業取得への理解を促進  <b>【定着率向上】</b> ・若年層へのエンゲージメントサーベイ、育成面談、新人フォロー研修の定期実施 ・若年世代への教育方法に関する研修の実施 (目標:新卒入社社員3年後定着率90%以上)	<b>【女性活躍】</b> <u>総合職新卒採用の女性比率</u> 2022年4月入社 50% 2023年4月入社 60%予定  <u>育児休業取得率</u> 2022年度 女性100%、男性28%  <b>【定着率向上】</b> <u>新卒入社社員3年後定着率</u> 2020年4月入社社員 91%
6 地域社会への貢献	●地域を活性化する取り組みを通じ、地域社会の発展に貢献		
	工場・ビート資料館の見学を通じた食育活動を実施する	・ウェブ会議システム等を活用した工場見学の実施を検討 ・ビート資料館の館内案内の動画配信を検討	<u>見学受入れ</u> 15団体 ※予約して来館する団体
	●農福連携等、障がい者の自立やいきがづくりを目指した社会の実現に貢献		
	自治体と連携し、障がい者の社会参加を支援する	・各製糖所にて自治体を交え、農福連携や障がい者の社会参加支援の意見交換会を実施	全ての製糖所で実施
	当社における障がい者雇用を促進する	・障がい者雇用に適した業務切り出しを進め、支援施設と連携し雇用増を目指す	<u>障がい者雇用</u> 1名増